

現在、西アフリカ地域（ギニア、リベリア、シエラレオネ）を中心にエボラ熱が流行しています。また、エボラ熱流行国で医療支援に従事した人達を介して、米国やスペインでは輸入感染例及び二次感染例も確認されています。

WHOの発表（11月5日付）によると、エボラ熱の感染者数は13,042人、うち死者数は4,818人となっており、現在も感染の拡大は続いています。

このような状況を踏まえ、教職員及び学生の皆さんにおいては、海外渡航の際には細心の注意を払うとともに、エボラ熱流行地域（西アフリカ；ギニア、リベリア、シエラレオネ）への不要不急の渡航は見合わせるようにお願いします。

日本国内においても、西アフリカへの渡航者等からエボラ熱感染の疑い例がでています。今後、エボラ熱流行国への渡航者等により日本にエボラ熱が持ち込まれる可能性も考えられますので、エボラ熱についての正しい情報を入手し冷静な対応が必要です。

エボラ熱の初期症状は、これからの季節に必要なインフルエンザとも似ています。下記にエボラ熱とインフルエンザとの比較を示しましたので、この機会に併せてご確認ください。 ※なお、以下に示す症状等はエボラ熱、インフルエンザのみに特徴的なものではありません。

※エボラ熱の詳細については、[感染制御部『エボラ熱対応マニュアル』](#)、ICTニュース:168号『[エボラ熱](#)』を参照ください。

エボラ熱*

エボラウイルスによる急性熱性疾患



国立感染症研究所 HPより

- ◆潜伏期間：2～21日（通常は7～10日）
- ◆主な症状：発熱、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、嘔吐、下痢、胸痛、腹痛、食思不振、脱力、原因不明の出血など。
- ・検査所見：白血球数や血小板数の減少、肝酵素値の上昇を認める。
- ※潜伏期には感染性はなく発症後から感染力が生じるとされています。

症状

- ・エボラウイルスに感染し発症した患者の体液等（血液、分泌物、吐物、排泄物、汗等）に直接接触し、ウイルスが傷口や粘膜から侵入すること、また患者の体液等で汚染された環境や物に間接的に接触し、ウイルスが傷口や粘膜から侵入することにより感染する。
- ※現在、空気感染を確定する報告はありません。

感染経路

- ・現時点では、エボラ熱に対する承認されたワクチンや治療薬はなく、症状に応じた治療（対症療法）を行います。

治療

- ◆予防
- ・エボラ熱流行地域への渡航を控える。
- ◆エボラ熱を疑う外来患者が来院した場合：感染制御部「エボラ熱対応マニュアル（下記フローチャット等）」に沿って対応する。

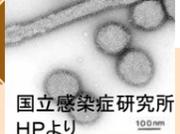
予防・対応

- ・外務省海外安全HP <http://www.anzen.mofa.go.jp/>
- ・厚生労働省検疫所HP <http://www.forth.go.jp/>
- ・国立感染症研究所HP <http://www.nih.go.jp/niid/ja/>
- ・世界保健機構(WHO)HP <http://www.who.int/en/>
- ・アメリカ疾病予防管理センターHP <http://www.cdc.gov/vhf/ebola/>

*本疾患はウイルス性出血熱の一疾患であるが、必ずしも出血症状を伴うわけではないため、ここでは『エボラ熱』とする。

インフルエンザ

インフルエンザウイルスによる上気道感染症



国立感染症研究所 HPより

- ◆潜伏期間：1～4日（平均2日）
- ◆主な症状：発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感、咽頭痛、咳嗽、鼻汁、下痢など。
- ※潜伏期（発症24時間前）から感染力があるとされています。



- ・インフルエンザウイルスに感染した患者の咳やくしゃみ、会話等により飛び散った飛沫を口や鼻から吸い込むこと、また感染者の咳、くしゃみ、鼻水などが付着した環境や物に間接的に接触し、ウイルスが鼻や口等の粘膜から侵入することにより感染する。

- ※一回のくしゃみで飛び散る飛沫は約200万個、咳で約10万個といわれています。感染者から1～1.5メートルの距離であれば、直接周囲の人の呼吸器に侵入してウイルス感染が起こります。

- ・抗インフルエンザウイルス薬の投与及び症状に応じた治療（対症療法）を行います。
- ※抗インフルエンザウイルス薬の服用を適切な時期（発症から48時間以内）に開始すると、発熱期間は通常1～2日間短縮され、ウイルス排出量も減少します。

- ◆予防
- ・日頃の体調管理：十分な睡眠と栄養を摂り、体力、抵抗力を維持することが大切です。
- ・ワクチン接種：感染後の発症予防と重症化防止のために有効です。
- ※ワクチンによる効果は、接種後2週間から5か月程度とされています。
- ・手指衛生の励行、環境表面の清掃並びに流行時はサージカルマスクの着用を行う。
- ※インフルエンザウイルスはエンペローブを有するため、アルコールが有効です。
- ◆自身が罹患した場合：自覚症状を認めたら、サージカルマスク着用のうえ、速やかに医療機関を受診し、就業制限に基づき十分な自宅療養を行う。
- ※就業制限：発症から5日を経過し、かつ解熱後2日を経過するまで



エボラ熱を疑う外来患者の対応

※感染制御部『エボラ熱対応マニュアル』より

